

第三種郵便物認可

信 濃 毎

平成生まれ
ジブン
元年 ②

昨年末の午後、松本秀峰中等教育学校(松本市)の理科実験室。ストップウォッチを手に、塩化カルシウムの水溶液に挿した温度計を15秒ごとに計測し、18度、20度、19.5度...と発生する熱の変化を記録していく。表情は真剣そのものだ。

水溶液の入ったビーカーに触れると「あ、あつたかい」と柔和にほほ笑んだ。「科学の甲子園ジュニア全国大会」(科学技術振興機構主催)の実技の一つ。昨年12月上旬に茨城県で開催された大会に県代表の一人として出場した。

◇ アルバート・アインシュタインの特殊相対性理論発表から100年を記念した「世界

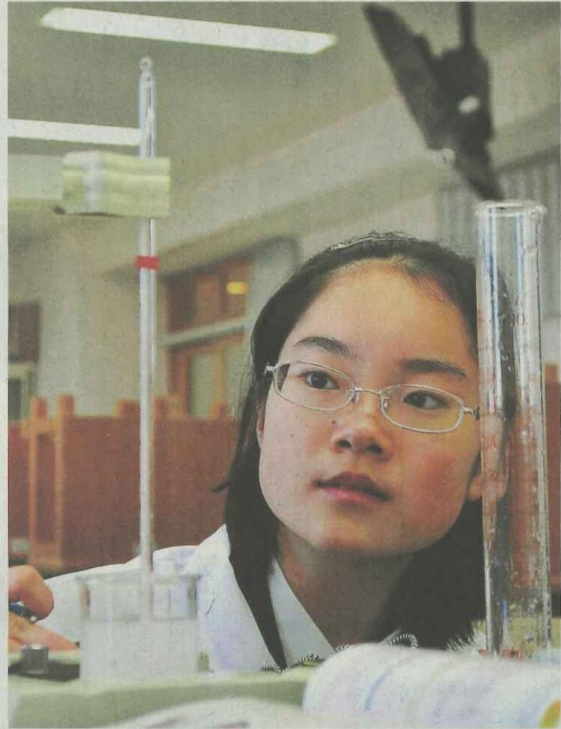
次代の目標

世界に目を向けよう

「科学の甲子園ジュニア全国大会」出場

松本秀峰中等教育学校1年 染谷 香希さん (13) 松本市渚

実験室の外で得た刺激



科学部が活動する理科実験室で塩化カルシウム水溶液の温度を調べる染谷さん

物理年」の2005(平成17)年、都内で生まれた。田川小学校入学と同時に松本市へ。バスや図形が好きで「頭の中にゲームのテトリスがあるような感じ」(母恵理子さん)の子だった。だが、勝負事で負けても泣いたり怒ったりし

ない、おらかな性格だ。小1の時、試しに出た将棋大会が一つの転機になった。動物を駒に見立てた簡単な将棋の経験しかなかったため、同年代の相手に大負け。会場のトイレにこもり1時間近く泣き続けた。「悔しくて、将棋ができたら格好いと思つた」と振り返る。

毎週市内の教室に通つて力を付け、県内の小学生大会で上位に入るようになった。4年生で第1回信毎杯信州女流アマ棋士戦2位に。一時、受験勉強で遠ざかったが今は学校の同好会で指す。「考え敵を倒すのが楽しい」と頭脳戦の魅力を話す。

「好きなことは何でもやりたいタイプ」と自己分析する。科学部は体験入学から魅力を感じ、放課後に実験を重ねる。「いつはいつはいいに磨く上で大切にす言葉だ。

考えて分かった時のやり切った達成感」に引き込まれた。

◇ 「科学の甲子園ジュニア」は校内で募集を知って参加した。県予選となるイベントでは他校の生徒とチームを組んで、猫の侵入対策ロボットを製作。全国大会に出場する6人に入った。

入賞はできなかったが刺激を持ち帰った。会場で企業の展示を見ていた県外の生徒がさまざまな質問をぶつける様子に驚き、声を掛けた。趣味が読書と聞き「本から知ることはいろいろある。もっと読もう」と感じた。宇宙飛行士の金井宣茂さんの講演では、他の登壇者と英語で話す様子を語学力の必要性を痛感した。

英語やプログラミング言語を「世界の入り口」に、将来は国際舞台で働きたいと願う。夢は愛読する漫画「名探偵コナン」にも登場する監察医だ。漫画でのお気に入り、目先のことにこだわられ、狩るべき相手を見誤るな」というせりふ。テストなどで問題文をよく読まずに答えてしまうことへの自戒も込め、頭脳を磨く上で大切にす言葉だ。